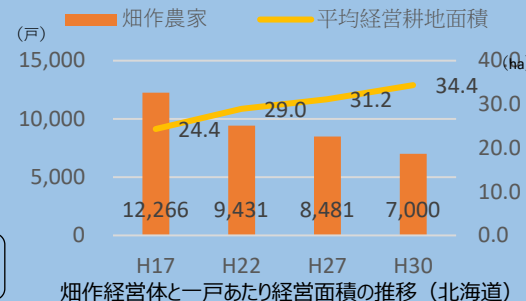


（現状・課題）

近年、国内外の需要の高まりに対応する必要がある一方で、いも類等の病害の拡大、労働力不足など、畑作物を取り巻く環境に新たな影響・変化が現れており、持続的な生産体系の確立が急務となっている。このため、畑作産地で直面している諸課題への対応力強化を目的に、①病害抑制と需要に応じた生産拡大の両立対策、②労働負担軽減対策、③環境に配慮した生産体系確立支援、④健全な種子の安定供給対策に対する支援が必要。

（現状・課題を示すデータ）

- かんしょの生産量：H29 80.7万トン→R2 68.8万トン サツマイモ基腐病発生前に比べ11.9万トン減  
（輸出量：H29 2,652トン→R2 5,268トン（99%増））
- 種ばれいしょの生産状況 生産量：H27 16.6万トン→R1 16.1万トン（3%減）  
（作付面積：H27 4,710ha→R1 4,326ha（8.1%減））
- 加工用ばれいしょ（ポテトチップ仕向用）の需給状況：国産1.7万トン、輸入0.7万トン増加（H27→R1）  
（需要量：H27 42.8万トン→R1 45.2万トン  
供給量：H27 国産40.4万トン、輸入2.4万トン → R1 国産42.1万トン、輸入3.1万トン）



インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム（短期）	アウトカム（中期）	アウトカム（長期）	インパクト
予算 （百万円）  R4: 2,076	① 病害抑制と需要に応じた生産拡大のため、新たに交換耕作や輪作体系の見直しを行う農業者に対して、種子代や農業資材等の掛かり増し経費を支援  ② 労働負担軽減を図り、需要の高い作物の生産拡大するため、農業者等に対して、省力作業機械等の導入経費を支援  ③ 化学農薬・化学肥料の使用量削減のため、病害抵抗性品種を導入する農業者や低投入型栽培の確立に取り組むコンソーシアムに対して経費を支援  ④ 健全な種ばれいしょを安定供給するため、り病率低減や小粒化に取り組む農業者に対して経費を支援	① 病害抑制と需要に応じた生産拡大の両立対策（60地区実施）  ② 労働負担軽減対策（50地区導入）  ③ 環境配慮した生産体系確立支援（抵抗性品種30地区導入、実証20地区）  ④ 健全な種子の安定供給対策（70地区実施）	①-1 病害抑制によるかんしょの単収の増加（R6 10%増加） ①-2 加工用ばれいしょの生産量の増加（R6 1.5万トン増加）  ② 畑作物の労働時間の削減（R6 10%削減）  ③-1 抵抗性品種の作付割合の増加（R6 ばれいしょ作付面積の40%） ③-2 畑作物生産における化学農薬・肥料の使用量低減の可能性の追求  ④ 種ばれいしょの生産量の増加（R6 0.3万トン増加）	①-1 かんしょの生産量の回復（R10 82.6万トン） ①-2 加工用ばれいしょの生産量増加（R10 3万トン増加）  ② 畑作物の労働時間の削減（R10 15%削減／R1 31.83時/10a）  ③-1 抵抗性品種の作付割合の増加（R10 ばれいしょ作付面積の50%／R1 27.8%） ③-2 環境配慮型の生産方法の普及  ④ 種ばれいしょの生産量の増加（R10 0.5万トン増加）	①-1 病害抑制した生産体系の確立、需要の高まりに対応した安定生産 ①-2 同上及び加工用ばれいしょの輸入から国産への需要の奪還  ② 省力化による労働生産性の向上、品目間の労働時間の格差縮小による作物選択幅の拡大  ③-1 ①-1と同じ ③-2 環境配慮型生産方法の定着  ④ 需要に見合った健全な種ばれいしょの安定供給	需要構造の変化に対応した生産・供給体制の確立及び畑作生産の適正化による農業の持続的な発展

※ 基準年：かんしょR2、種ばれいしょ・加工用ばれいしょR1